



No.35

2017.12.24

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994年に発足しました。

米軍基地内の環境汚染と調査の中止

日の出の森・副代表 大沢ゆたか

米軍横田基地は立川市を含む周辺の5市（羽村市、福生市、昭島市、立川市、武蔵村山市）と瑞穂町に取り囲まれています。同基地では1993年に地下タンクから航空機燃料が漏れ出る事故が起きました。その後も数度燃料漏出事故を起こしています。2009年には基地内の事務所が火災になり、基地内の消防隊と日本の消防隊が出動し消火をしました。それが原因だと思うのですが、その後福生市の公園の水路で数百匹の魚が死んだとの報道がありました。

また、昨年夏は8月に局地的な大雨が降り、立川市内の横田基地に隣接する北部で床上、床下浸水が起きる水害もありました。この一因には広大な横田基地内に降った雨が排水できずに基地の南端の立川市西砂町地域に流れ込んだこともあるだろうといわれています。基地の環境は基地外に大きな影響を及ぼすということです。

2013年に沖縄嘉手納基地跡地から猛毒のダイオキシンを含むドラム缶（最終的には108本）が見つかっています。これはかつてベトナム戦争の時の遺物ともいわれています。その調査や汚染除去に9.7億円もの経費がかかりましたが、アメリカは1円も払っていません。これは「日米地位協定」の定めによって「軍用地返還の際、米軍は土地や建物の原状回復や補償の義務を

負わない」と明記されているためです。

さらに最近、沖縄の環境調査団体IPPの情報公開で分かったことですが、環境省による全国の米軍基地内での環境調



査が2014年以降中止されていることが分かりました。その理由は明らかにされていません。全国の基地でもそうですが、周辺自治体がいかに環境汚染のないようにしていくか努力をしているのに、米軍基地ではそうした努力しなくてよいというのではたまつたものではありません。基地の整理、縮小、返還を求めていますが、他国の土地を使用させてもらっているとするならば、アメリカには自らの責任は果たしてもらわなくてはなりませんし、環境に関する情報は報告し、公開されなくてはなりません。

もう一方の本質的な軍事基地の問題（騒音問題や裁判、航空機からの部品落下のこと、オスプレイの度重なる飛来、2年後のオスプレイCV-22の配備予定など）もありますが、今回は環境問題だけに絞って書きました。

【連絡先】 〒190-0011 東京都立川市高松町2-19-1

E-mail:hinodenomori@tokyo.email.ne.jp ホームページ：<http://hinodenomori.main.jp>